

学校法人名城大学 名城大学附属高等学校 2023年度SSラボⅡルーブリック

A:知識・技能 B:思考・判断・表現 C:主体的に学習に取り組む態度		目指す スキルの推移	SS 2年生		SS 3年生					
			SS 1年生							
大項目	項目	観点	評価基準							
			1	2	3	4	5	6	7	8
A 研究活動	① 研究に対する関心・熱意	C	担当者とのコミュニケーションがとれておらず、日々の研究活動の報告ができていない。レポートの提出状況、内容が不十分である。論文やレポートは添削指導が不十分、期限内に提出できていない。	担当者とのコミュニケーションがとれておらず、日々の研究活動の報告ができていない。レポートは提出しているが、報告内容が不十分である。論文やレポートなどの提出物は、不十分であるが、担当者による添削指導が終了した状態で期限内に提出されている。	担当者とのコミュニケーションが完全ではないが担	担当者とのコミュニケーションが完全ではないが担	担当者とのコミュニケーションが完全ではないが担	担当者とのコミュニケーションが完全ではないが担	担当者とのコミュニケーションが完全ではないが担	日々の研究の進捗状況が担当者に適切に報告され、レポート等を活用し担当者とのコミュニケーションがとれている。論文やレポートなどの提出物は担当者による添削指導が終了した状態で期限内に提出されている。
	② 研究活動への意欲・態度	C	研究計画を立てることができず、いつ何をすればよいか理解できていない。研究活動に対してかなり不十分である。	研究計画は自ら立てることに不十分であったが、研究活動は、最低限の実験手法、手法が身に付いている。	研究計画を自ら立てることに不十分であるが担	研究計画を自ら立てることに不十分であるが担	研究計画を自ら立てることに不十分であるが担	研究計画を自ら立てることに不十分であるが担	研究計画を自ら立てることができる。研究活動は、周囲とコミュニケーションがとれ、主体的に研究を進めている。実験手法、手法ともに適切に習得し、行うことができる。	
	③ 研究のデザインとオリジナリティ	A,B	研究目的と研究方法が合致していない。研究に独創性がない。	研究目的を達成するのにふさわしい研究方法であるかや疑問が残る、他に適当な方法が存在する。研究への視点や手法のアイデアの独創性が少なく、改善の余地がある。	研究目的を達成するのに適していると考えられる	研究目的を達成するのに適していると考えられる	研究目的を達成するのに適していると考えられる	研究目的を達成するのに適していると考えられる	研究目的を達成するのに適していると考えられる	研究目的を達成するために最もふさわしいと考えられる研究方法を採用している。研究への視点、手法のアイデアにオリジナリティがある研究である。
	④ 研究倫理	A,B	研究に関わる倫理上の問題への考慮・対応を全く検討していない。データの管理は不十分である。	研究に関わる倫理上の問題への考慮・対応が十分とはいえない。データの管理は十分とはいえない。	研究に関わる倫理上の問題について、考慮して研究	研究に関わる倫理上の問題について、考慮して研究	研究に関わる倫理上の問題について、考慮して研究	研究に関わる倫理上の問題について、考慮して研究	研究に関わる倫理上の問題について、考慮して研究	研究に関わる倫理上の問題について、十分に考慮し、必要な対応を済ませた上で、研究活動を進めている。レポートの管理、データや独自資料の保存も適切に行っており、紹介や検証にも十分に対応できている。
	⑤ 科学的コミュニケーション	B,C	他者と議論ができず、研究内容を全く理解していない。	他者と研究の議論が不十分であるが、ある程度コミュニケーションが取れている。他者の研究内容を十分に理解しているとはいえない。	他者と研究の議論ができ、コミュニケーションが取	他者と研究の議論ができ、コミュニケーションが取	他者と研究の議論ができ、コミュニケーションが取	他者と研究の議論ができ、コミュニケーションが取	他者と研究の議論ができ、コミュニケーションが取	同じ班や研究グループ、クラスメイトや先輩・後輩の間で研究の議論が活発に行われているなどのコミュニケーションが十分に取れている。日々の活動において他者の研究内容まで理解している。
B 研究内容・論文・レポート	① 研究の位置づけと課題の設定	A	先行研究の調査ができていない。課題や背景を理解しておらず、自らの研究の意義を全く理解していない。	先行研究の調査が不十分である。課題や背景の理解が不十分で、自らの研究の意義を十分に理解していない。	先行研究では、初歩的な文献や資料を調べること	先行研究では、初歩的な文献や資料を調べること	先行研究では、初歩的な文献や資料を調べること	先行研究では、初歩的な文献や資料を調べること	先行研究では、初歩的な文献や資料を調べること	先行研究では、文献や資料を丹念に調べ、研究に関する十分な情報を得ている。課題や背景を十分に理解しており、研究の意義が明確である。
	② 目的の明示	A	研究の目的が明確には述べられていない。	研究の目的はおおよそ示されているが、その目的を達成するためにどのように進めようかはやや不明確である。	研究の目的は述べられており、その目的を達成す	研究の目的は述べられており、その目的を達成す	研究の目的は述べられており、その目的を達成す	研究の目的は述べられており、その目的を達成す	研究の目的は述べられており、その目的を達成す	研究の目的が明確に述べられており、その目的のために当該研究で何をどう進めようかという計画も明確にされている。
	③ 研究方法の妥当性	A,B	研究目的を達成するために妥当な研究方法を採用しておらず、その手法や手順が明確でない。	研究目的を達成するのに適していると考えられる研究方法を概ね採用しているが、その手法や手順が明確でない。	研究目的を達成するのに適していると考えられる	研究目的を達成するのに適していると考えられる	研究目的を達成するのに適していると考えられる	研究目的を達成するのに適していると考えられる	研究目的を達成するのに適していると考えられる	研究目的を達成するために最もふさわしいと考えられる研究方法を選択している。また、その手法や手順も分かりやすく明確に示されている。
	④ 結果の理解	A,B	図やグラフが示されておらず、客観性に乏しい。結果の理解や表現に問題がある。	図やグラフが示されているが、理解しにくいものである。結果の理解や表現に疑問が残る、実証性、再現性、客観性に乏しい。	図やグラフが適切に示されており、おおむね妥当な	図やグラフが適切に示されており、おおむね妥当な	図やグラフが適切に示されており、おおむね妥当な	図やグラフが適切に示されており、おおむね妥当な	図やグラフが適切に示されており、おおむね妥当な	図やグラフが適切に示されており、行った研究活動が、実証性、再現性、客観性のすべてを兼ね備えており、誰からも疑いのない結果を示している。
	⑤ 仮説の実証・考察の論理性	B	仮説が実証されておらず、科学的考察や結論の表現に問題がある。	仮説の実証が不十分で、科学的考察や結論に改善の余地がある。	仮説を実証し、結果に基づいた考察になっている。	仮説を実証し、結果に基づいた考察になっている。	仮説を実証し、結果に基づいた考察になっている。	仮説を実証し、結果に基づいた考察になっている。	仮説を実証し、結果に基づいた考察になっている。	得られた結果から、仮説を実証し、論理的な整合性を維持して、適切な証拠を集めて議論を進めている科学的考察になっている。考察に基づいた結論が適切に示されている。
	⑥ 研究の価値と展望	B,C	研究の展望が描けていない。文献からの引用が適切でない。	結論に基づいた研究の展望に妥当性がなく、研究の問題点や限界との関連付けが不十分である。文献からの引用が行われているが、表現の方法が適切でない。	結論に基づいた妥当な研究の展望が描けているが、	結論に基づいた妥当な研究の展望が描けているが、	結論に基づいた妥当な研究の展望が描けているが、	結論に基づいた妥当な研究の展望が描けているが、	結論に基づいた妥当な研究の展望が描けているが、	研究の問題点を明らかにし、研究の限界を理解している。問題点や限界を克服したときの研究の展望が描けている。文献からの引用が適切に行われている。
C 口頭・ポスター発表	① 発表の態度	C	発表スライド（ポスター）は、理解しにくいものである。説明の速さ、聴衆とのコンタクトともに不十分である。原稿を読むことに専念し、発表の準備が全くできていない。	発表スライド（ポスター）は、発表内容を理解するための最低限な情報に留まっている。説明の速さ、聴衆とのコンタクトは改善の余地がある。発表の準備があまりできていない。	発表スライド（ポスター）は、見やすく、発表内容を	発表スライド（ポスター）は、見やすく、発表内容を	発表スライド（ポスター）は、見やすく、発表内容を	発表スライド（ポスター）は、見やすく、発表内容を	発表スライド（ポスター）は、見やすく、発表内容を	発表スライド（ポスター）は、順序立てた発表内容を理解しやすいものになっている。説明の速さも聞きやすく、聴衆とのコンタクトは、おおむね十分にできている。原稿や資料を読まずに発表し、準備が十分にできている。
	② 研究の目的と理解	A,B	研究の動機や背景が示されていない。目的が明確になっていない。仮説が示されていない。	研究の動機や背景が示されているが、発表を理解するためには不十分である。目的が示されているが、改善の余地がある。仮説の内容が不十分である。	研究の動機や背景が示されている。	研究の動機や背景が示されている。	研究の動機や背景が示されている。	研究の動機や背景が示されている。	研究の動機や背景が明確に理解しやすい。目的は研究課題を解決するための内容が示され、テーマとも合致している。仮説が明示してある。	
	③ 研究方法と結果の理解	A,B	研究目的を達成するために妥当な研究方法を採用しておらず、その手法や手順が明確でない。結果は、図や写真、表などを用いておらず、客観的に示されていない。	研究目的を達成するために妥当な研究方法を採用しているが、その手法や手順が明確でない。結果は、図や写真、表などを用いているが、客観的に示されていない。	研究目的を達成するために適していると考えられる	研究目的を達成するために適していると考えられる	研究目的を達成するために適していると考えられる	研究目的を達成するために適していると考えられる	研究目的を達成するために適していると考えられる	研究目的を達成するために最もふさわしいと考えられる研究方法を採用し、その手法や手順が示されているが、理解しにくい部分もある。
	④ 考察の論理性	B	仮説が検証されておらず、科学的考察や結論の表現に問題がある。	仮説を検証が不十分で、科学的考察や結論に改善の余地がある。	仮説を検証し、結果に基づいた考察になっている。	仮説を検証し、結果に基づいた考察になっている。	仮説を検証し、結果に基づいた考察になっている。	仮説を検証し、結果に基づいた考察になっている。	仮説を検証し、結果に基づいた考察になっている。	得られた結果から、仮説を検証し、論理的な整合性を維持して、適切な証拠を集めて議論を進めている科学的考察になっている。考察に基づいた結論が適切に示されている。
	⑤ 質問の対応	B,C	質問の意図を理解しておらず、質問への対応がかなり不十分である。	質問の意図を理解しているが、対応が少ししか対応できていない。	質問の意図を理解し、丁寧に	質問の意図を理解し、丁寧に	質問の意図を理解し、丁寧に	質問の意図を理解し、丁寧に	質問の意図を理解し、丁寧に	質問の意図を的確に理解し、研究の疑問点や問題点、発展性などが明らかになるような建設的な議論ができるように対応している。